

C—21 家庭管理よりみた静岡市近郊農家の「みそ」の自家生産について

静岡大 清水 歌

1. 「みそ」は、わが国古来の食品で、その栄養価も高く、その他種々の理由もあって、農家では古くから自家生産の行なわれていた食品であり、食生活において「わが家のおいしさ」を感じさせるものの一つでもあったと思う。しかるに近年食品の生産ならびに流通機構の変化に伴い、農家の食生活が、次第に都会化の傾向にあり、これは望ましいことであるが、一面昔の食生活のよさを失ってゆくのではないかと考えられる。ところが静岡近郊の農家では、なお「みそ」の自家生産が現在おこなわれているので、日本人の昔ながらの食生活はなおつづけられているとは考えられるが、農業生産に加えて「みそ」の自家生産が行なわれているということは、農村主婦の家事労働の加重にもなるので、家事労働をはじめ生産品の収納や保存その他、これに関連した事柄を究明したく、奈良女子大学家政学部長花岡利昌教授のご指導のもとに行なった。

2. 方法は質問紙法によった。被調査家庭は、静岡市周辺の農業地域の中の農家2,000戸で、同地域の中学校生徒を通じて質問紙を配布記入してもらった。

3. 「みそ」を自家生産している家庭が依然として大多数を占め、購入のみあるいは購入と併用している家庭はわずかである。また、自家生産している家庭においては、この仕事は主婦の分担であり、仕込みの容器、置き場所などについては従来通りのものが多い。したがって、「みそ」の自家生産に関しては、家事労働上にも家庭管理上にも将来改善すべき問題が、なお、残されていることが判明した。